

特別企画

★スポーツ少年団と連携・共同しているクラブ★

一般社団法人 菊川スポーツクラブ 山口県下関市

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、スポーツ少年団をはじめとする地域のスポーツ団体等と相互扶助の関係を築き、地域社会からの信頼性を確保し、地域に根差す団体となる必要があります。

そこで今回は、スポーツ少年団と連携・共同し、地域におけるスポーツ推進体制を高めているクラブを紹介します。

1

クラブ概要

スポーツ少年団を母体として設立された総合型スポーツクラブ

菊川(山口県下関市)は昭和の時代からスポーツが盛んで、子どもたちへのサポートが手厚い環境です。しかし、平成17年2月に下関市と旧豊浦郡4町(菊川町、豊田町、豊浦町、豊北町)が合併した際には、「菊川の良さ」が失われてしまうのではないかと懸念が地域で高まりました。「菊川の良さ」を受け継ぐための話し合いが何度かもたれ、そのなかでスポーツ少年団を母体とした総合型スポーツクラブを設立する方向で意見はまとまりました。同年5月にクラブ設立の準備委員会が発足し、その当時あった13団の選手と指導者、設立に賛同いただいた方々が会員になり、翌18年10月1日にクラブは設立されました。

その後、クラブは平成19年4月から菊川体育施設の指定管理を受託。翌20年から5年間はスポーツ振興くじ助成事業を活用し、各種教室の事業を充実させながら平成27年に一般社団法人の法人格を取得しています。現在では、市の委託事業も増え、地域スポーツの拠点として活動しています。

〈令和5年度実施教室・活動〉

- ・大人教室(3教室、5サークル) ・小人教室(10教室) ・ジュニア活動(スポーツ少年5団、他2つ)
- ・その他1つ(登山) ・大会、イベントの開催 等

〈会費〉

- ・大人教室と小人教室は年会費+保険料のほかに、教室ごとの月会費等を徴収
- ・ジュニア活動は入会費のほか、団やクラブごとに年間会費または月会費を設定

〈会員数〉

605人

〈事務局〉

理事7人、監事1人、クラブ職員14人(理事のうち1人は事務局長)。施設の管理運営を行いながらクラブ事業に関わっています。職員のうち5人が主としてクラブの事業(教室等)を行っており、教室についてはクラブ外の指導者にも指導をお願いしています



夏休みの企画「サマーチャレンジ」での低学年の水鉄砲合戦の様子です。1週間、低学年高学年に分かれて、勉強、水泳、スポーツを行います

2

スポーツしたい子どもたちの希望に合わせた多様な活動

ジュニア活動は少年団登録と登録なしの2本立て

菊川スポーツクラブでは、スポーツ少年団とスポーツ少年団に登録していない団とを一緒にして、ジュニアと呼んでいます。スポーツ少年団に登録している軟式野球、ソフトボール、サッカー、バレーボール、剣道の5団体と、週2回の卓球、週1回のアスリートクラブ(陸上競技)になります。アスリートクラブはスクール(体力づくり)、クラブ(大会参加)、プラス(大会上位入賞をめざすなど)の3つに分かれていて、スポーツ少年団と兼ねて活動している子どもたちもいます。



剣道スポーツ少年団(剣友会)
中学生の受け入れも行っています



菊川野球スポーツ少年団
試合風景



アスリートクラブ
アップのラダー風景

2歳から参加できる幼児体育教室

また、ジュニア活動以前の2歳児から年長までの子どもたちには、「ちびっこぴよんぴよん教室」として、幼児体育教室を開催しています。運動公園・体育館とプールで年間を通して活動を行っており、からだ全体を使った外遊びやマット運動、跳び箱、鉄棒、ボールなどを使って楽しみながら基礎的な運動能力の育成をめざしています。

小学生になるときに、「何かスポーツを続けてやらせたい」という保護者からの相談もよくあるのですが、そのような子どもたちは、ジュニア活動にそのまま参加することもできますし、チャレンジキッズという低学年対象の多種目の教室に参加し、そこからジュニアに移行する子どももいます。

入会から登録、会費徴収、保険まで事務局で一括手続き

総合型クラブが事務局となってスポーツ少年団の団員募集、入会手続き、入会費の徴収、各団の登録、保険等の手続きを行っています。クラブの教室に参加している子どもも、ジュニアで活動している子どもも保険はクラブで一括して入会しているため、複数入る必要はありません。また、万が一クラブ活動で事故があった場合は、事務局で保険に関する手続きを行いますので、指導者への負担はありません。また、大会や行事を行う場合の受付や事務作業等も事務局で引き受けており、指導者にはそれぞれの指導に専念してもらっています。

クラブ立ち上げ時に発生した二つの問題点

クラブ立ち上げの際には、二つの大きな問題が発生しました。

一つは、スポーツ少年団関係者に入会費の話をしたところ、活動費以外に入会費を徴収することに否定的な意見が出てきました。「なぜそんなお金が必要になるのか」、「今まで自分たちでやってきたのに、どうして変わるのか」など、同意はなかなか得られませんでした。関係者に納得してもらえるように、スポーツ少年団の管理を受託する際に発生する諸雑費(会費管理、保険手続き等)に関して丁寧に説明し、何度も話し合いを行いました。今では当たり前になった入会費ですが、立ち上げの際は大きな問題でした。

もう一つは、いろいろなスポーツを経験したいという子どもたちには、十分な環境をつくることができましたが、各スポーツ少年団の主力メンバーである子どもが複数の競技活動をしている場合、大会日程が重なった際に指導者同士が言い争いになる等の問題も出てきました。これも今では、基本的には子どもたちの意見を尊重し、決定することになっています。

3

子ども、保護者、指導者が一緒に楽しむクラブづくり

活動するなかで学ぶことはたくさんある

昨今スポーツ少年団活動より、週1回の教室への参加が多く、活動が継続できない単位団も増えてきました。新たな種目を始める際に、週1回の教室からやりたいスポーツを見つけ、それからスポーツ少年団の活動に進んでほしいと思うのですが、働いている保護者も多く、休日の活動は負担になるのかもしれませんが、しかし、保護者の皆さんに支えられて、スポーツ少年団活動はつくり上げられていきます。スポーツ少年団がまとまっていく過程を経験することによって、子どもたちも成長していくものです。人との関わりが薄い現在では、このような経験はとても貴重なものだと感じます。

いろいろな選択肢があることがうれしいと言ってくれる保護者もありますが、土日を中心としたスポーツ少年団の活動には保護者からのサポートがネックになるという声もあります。

指導者から保護者の皆さんへは、「送迎だけをしてもらえればいいです」「子どもたちがやりたいのなら参加させてください」等の話をさせていただいています。「お手伝いはあまりできないかも…」と言っていた保護者が、子どもの上達を見るにつれ、いちばんの応援者なることもよくある話です。

「スポーツをする子・しない子」の二極化とよく言われますが、子どもが活動したいのなら、ぜひ参加させてあげてほしいものです。活動するなかで学べることもたくさんあります。保護者の皆さんも子どもたちと一緒に、活動を楽しんでほしいと思います。

4

「菊川の良さ」を受け継ぐ未来へ

地域の環境に合ったやり方を形にして、当たり前前やり方へ変えていく

17年前、スポーツ少年団を母体にした子どもたちの環境づくりからクラブを設立し、いろいろな課題にぶつかりながら、道を開いてきました。今では、その仕組みづくりで何の違和感もなくスポーツ活動ができています。菊川の地域に合ったやり方を進んできたからだと思います。

次へつないでくれる後継者の育成、マネジメントをする人材の確保が今後の課題です。このクラブで育った子どもたちが、運営担当や指導者としてクラブに携わってくれることが、次につながるクラブづくりでもあると考えています。

現在の地域の課題は中学校部活動地域移行です。クラブでは卓球・陸上競技については、ジュニアの活動と同時に中学生の受け入れをして、部活動のほかにも技術指導を受けたいという子の補強を行っています。

クラブは下関市の運動部活動地域移行実証事業に関わっていますが、学校や地域の皆さんの理解を得ることなど課題は山積みです。しかし、「これも菊川スポーツクラブ設立のときと、同じことだ」と考えるようにしています。何年かかるかわかりませんが、いろいろな課題をクリアしながら菊川の地域に合ったやり方を形にして、それが当たり前前環境になっていくことで、子どもたちのため、地域のためになると思います。これからも「菊川の良さ」を受け継ぐことを信じて進んでいきたいと思っています。

クラブプロフィール

設立年月日 平成18年10月1日(平成27年4月1日 法人登記)

所在地 山口県下関市菊川町大字下岡枝56番地 1

運営 会員数:605名(令和5年11月現在)、予算規模:4,100万円(令和5年度)

特徴 子どもと高齢者を中心とした活動が多い
菊川体育施設の指定管理を受けている
行政と協働している(お互いが足りないところを補いながら活動している)
地域の団体と協働しての活動が多い

連絡先 〒750-0317 住所:山口県下関市菊川町大字下岡枝56番地1
TEL:083-287-2820 FAX:083-287-3000
E-mail:kikugawa-sc@cyber.ocn.ne.jp